木部の「灰汁洗い」の研究

岐阜県立 森林文化アカデミー　森と木のエンジニア科2年　林産業コース　平川　匠

目的

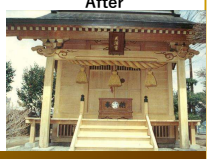
父の仕事の一つである「灰汁洗い」を体験し、口伝でしかない「洗いの技術」を調べ、曝露試験を経て、木部の「洗いの効果」を探る。

灰汁洗いとは

関西では「家洗い」
関東では「灰汁洗い」と言う。
灰汁、水、薬品などの溶液で、
建築の露出した木部の汚れを落とし、
変色、雨漏り、カビ等のシミ抜きをする。

Before

After



調査方法

今回の研究のため、専門家へのインタビューと体験を通して、
洗いの技術と曝露試験後の予想される効果を聞き、
洗い直後の効果と曝露試験後の実際の効果について調査する。

専門家　平川美知雄 氏　（父）

「灰汁洗い」「自然石洗い」「コーティング」のエキスパート。
「灰汁洗い」では多くの神社仏閣から数奇屋門や和室など数多く手がける。
又、セミナー講師としても活躍し、多くの人材を育てている。

主に3種類の洗い方

古式灰汁洗い（水洗い含む）

発祥地とする京都、大阪の初期のやり方。
アルカリ性の灰汁と酸性の酢などの液を水で希釈して用いる。
木の風合いを残すため自然由来の身近な物で汚れを洗い、詰まっていた樹液を引き出す。

関西洗い

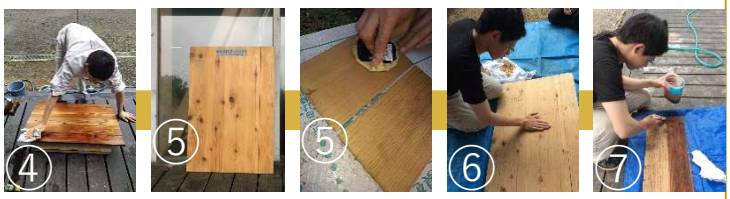
関西で明治初期から行われてる伝統的なやり方。
アルカリ性の苛性ソーダと酸性のシュウ酸などの劇薬を水で希釈して用いる。
木の風合いを残すため濃度はかなり薄く、舌で薄く甘味や酸味を感じとり確かめる。

一般的アク洗い（白木洗い）

全国の塗装業、清掃業でやられる一般的なやり方。
汚れ、変色、カビ、シミ、色目を変化させるなど、目的に合った市販の液体を刷毛か噴霧器を用いる。
木の風合いや本来の色、香りは消えるがシミなどの汚れはほぼなくなる。
しかし、高濃度の薬品が混合してるので、噴霧器で洗う場合は防毒マスクが必要。

古式灰汁洗いのやり方

① 木、藁、などを燃やして出来た灰に、水を入れ、掻き混ぜる。
　灰を沈殿させ、上澄み液（灰汁）を作る。
　火にかけ温めた灰汁を手桶に移す。
② コソゲや鉋などを使い、表面のでこぼこを削る。
③ 稲穂を束ねた水箒で、汚れた木に塗る。
　灰汁引きで灰汁を塗り、汚れを浮かせる。
　ササラで摩った後、温水を含ませた水箒で洗い流す。
　木酢などの希釈液を抜き箒で塗る。



④ 水拭きで仕上げる。
⑤ 乾燥後、サンダーや竹皮（バレン）、トクサなどで磨く。
⑥ 木の油気が少ない場合は米ぬかなどの油を塗る。
⑦ 屋外の壁には焙煎した団栗の煮出し液や柿渋などの防腐剤を塗る。

鉋　コソゲ

「関西の洗い屋の道具」

液体に合わせて容器と箒などを使い分け、箒などは自作

アルカリ性　酸性　水

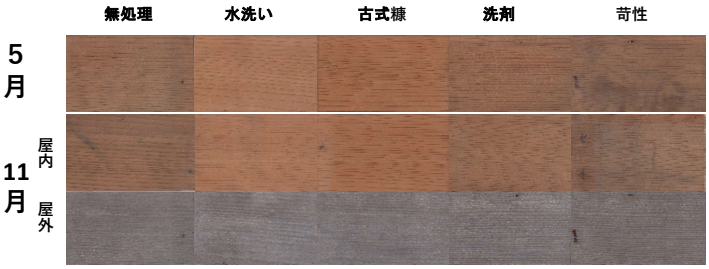
ペン缶桶　灰汁引き　ササラ　抜き桶　抜き箒　洗い桶　水箒

曝露試験（5月～11月）

試験①「屋外及び屋内平置き曝露」杉板 10枚（明治時代の家屋の天井板）

無処理
水洗い
古式糠（サンダー、糠仕上げ、竹皮磨き）
苛性（苛性ソーダ）
洗剤（中性）

屋外平置き曝露の様子（デッキを想定）



屋内　予想　6ヶ月では、ほぼ変化なし　結果　変化なく、洗いの効果は期待できる。

古式糠	木目がはっきりして色がよく、木と糠の良い匂いがする。
苛性ソーダ	色はよいが古式に比べ白く、匂いが全くない。

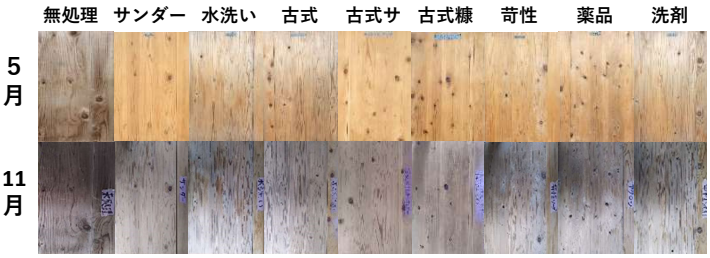
屋外　予想　全て灰色になり、違いがない　結果　2ヶ月ほどで灰色になりそれ以降は変化なし

苛性ソーダと薬品	特にこの二つは銀発色に光っており、中和をさせる事が難しく、木の中に成分が残留してしまうため、銀発色にならないようにすることは難しい。

試験②「半屋外軒下曝露」　壁板 9枚（取り外し可能な壁板）

無処理
水洗い
古式
古式サ（サンダー仕上げ）
古式糠（サンダー糠仕上げ、竹皮磨き）
苛性　（苛性ソーダ）
薬品　（ミヤキのアクロンAB）
洗剤　（中性洗剤）
サンダー

半屋外軒下曝露（外壁を想定）



予想　サンダー以外は灰色になる。　結果　サンダー以外は黒から白の銀発色になる。

水洗い	表面的な汚れだけであれば、落とすことが出来た。
中性洗剤	汚れが水洗いより落ちず、ムラになった。
古式糠	梅雨時にカビが発生して黒ずんでいる。
苛性ソーダ	逆目のケバ立ちが風化するごとに目立つ
古式	自然な木目と色合いで風化している。
薬品と洗剤	脱色して木の風合いが消え、木目が目立ちにくくなっている。
古式サンダー	綺麗な木目と色合いで、シミなどもない。
サンダー	綺麗な木目と色合いだが、シミなどは消えていない。

まとめ

全般的に洗いの効果は屋外では、効果が少なく、防腐剤（柿渋など）や塗料が必要。
屋内では十分に効果があり、手入れの仕方によれば、永い間、保てる。
半屋外では、効果が徐々に弱まり、風化していく木の経年変化を楽しめる。

古式洗いは手間はかかるが、水洗いなら屋外の木部の汚れでも簡単に落ちるので、
一般の人達には屋内なら空拭きを屋外なら年に一度、水洗いをすると良い。

今でこそ、古式灰汁洗いの方法は使われることがないが、
今の薬品や塗料などの化学物質は強い効果のため、白色してしまい風合いが消える。
そのため、この研究のまとめとしては、古式灰汁洗いがもっとも
木の風合いを残すために洗うのに適しているものと考えられる。

木の寿命を縮める汚れを「洗う」という技術は、木がある限りは木部のメンテナンスの一つとして、残せるよう考えなくてはならない。

自然は師なり 木の声を聞け

by 平川 美知雄